

した。はねは、こげ茶色に かわって
きて います。ときどき、チツチツと
声を たてます。おや鳥は、つばさを
ひろげて、ひなを かばって いる み
たいでした。

六月十六日 雨

ひなの はねは、だんだん こく
なって くる みたいです。黒と 茶色が
まじった 色です。目が かがやいて、
くらばしも するどく なって きて
います。

- (1) はねの 色の かわりかた⑥
- 黒と茶色→こげ茶→白
- こげ茶→黒と茶色→白
- 白→こげ茶→黒と茶色
- (2) くらばしの ようすの かわりかた⑥
- だいたい色→どがった→するどい
- どがった→だいたい色→するどい
- だいたい色→するどい→どがった

- 12 -

三、つぎの 文しやうを よんで、下の もんだいに こたえなさい。

四つに なる かこちゃん、野原に
いくと、あたり いらめんが、やわらかい
お日さまの 光で、いっばいです。

かこちゃんは おどりたく なりました。

かこちゃんが おどると、かみの 毛が
お日さまの 光で つやつやと 光りまし
た。

かこちゃんは、エプロンに お日さまの
光を つつんで うらへ もって きまし
た。

おばあさんは、足が わるくて そとに
でられないので、いつも 「お日さまの

- 1 かこちゃんは なぜ おどりたく なっ
たのですか。よいと 思う ものを 一つ
えらび、に を つけなさい。⑥
- 野原には きれいな 花が さいて、
小川に 水が ながれて いたから。
- 野原に、いっばい お日さまの
光が あたって いたから。
- 野原には だれも いなかっし、
おもいっきり あそびたかったから。
- かみの 毛が、お日さまの 光で
つやつやと 光ったから。
- 2 かこちゃんが、エプロンに お日さまの

- 13 -

光が ほしい ほしい。」と いって い
ました。

うらへ 帰ると、かこちゃんは、おばあ
さんの ところへ かけて いきました。

そして、だいに おさえて いた エ
プロンを、おばあさんの 前で、そつと
ひらきました。

けれども エプロンの中には なんにも
ありません。かこちゃんは なきだしそう
になりました。

おばあさんは、かこちゃんを いっまで
も ひぎの 上に だいて いました。

- 光を つつんで もって きたのは なぜ
ですか。よいと 思う ものを 一つ
えらび、に を つけなさい。⑥
- かこちゃんは やわらかい お日
さまの 光が、大すき だったから。
- かみの 毛が、お日さまの 光で
つやつやに なったのを、おばあさ
んに みせたかったから。
- そとに でられない おばあさん
に、お日さまの 光を あげるため
に、おばあさんを まぶしく させて、
びっくり させるため。

- 14 -

- 3 おばあさんは、かこちゃんを どんな きもちで だいて いたでしょう。よいと
思う ものを 一つ えらび、に を つけなさい。⑥
- 「かこちゃんは、元気な 子どですわね。」
- 「かこちゃん、なかないでね。お日さまの 光は、おばあさんが とって きて
あげるよ。」
- 「お日さまの 光は、エプロンでは つつめないのですよ。」
- 「かこちゃんは、やさしい 子だね。どうも ありがとう。」
- 6
- 一、それぞれの()の なかで、正しい 書きあらわしかたの 文を 一つずつ えらび、
に を つけなさい。
- 春は あたたく、夏は あついで。
- 春は あたたく、夏は あついで。
- 春は あたたく、夏は あついで。
- 春は あたたく、夏は あついで。

- 15 -